

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ「高校生のネットやゲームの使用問題について考える」
- 2 対象 1、2年生
- 3 専門医 東海林 岳樹 医師（児童思春期精神医学）
- 4 実施月 8月
- 5 内容（キーワード）
bio, psycho, social の3つの視点から、ネット・ゲーム依存の問題について考える。



評価（あてはまるものに○をつけ、理由を記入）

①健康課題の解決について

- 有効だった
 有効でなかった

<その理由>

*スマホ使用にともなう睡眠不足の生徒が少なくないと思われる昨今、あらためてそれぞれの生活習慣を見直す良い機会となった。

②校内の組織づくりについて

- 有効だった
 有効でなかった

<その理由>

*以前生徒総会で「午睡」の時間設定が否決されたが、その効果についての話があり、生徒会で改めて問題提起を考える刺激となったようである。

③校外の関係機関等との連携について（派遣専門医を含む）

- 有効だった
 有効でなかった

<その理由>

*こちらの医療センターには、今までも講師派遣などでお世話になっており、今後も密に連携していきたい。

〔受講者の感想など〕

- 今まで、ゲームとかネットとかは私にとって楽しかったり、新しい情報を手に入れるところと思っていたのですが、コミュニケーションが苦手だったり、うまく周りとか付き合えない人からみると、一つの居場所になっていたということを知りました。自分がやりたい気持ちを抑えられないという簡単な話ではなく、障害をもってそうなっている人もいるということを知ったので、ゲームに依存しているという一つの事実だけでなく、もしかしたら理由があるのかもというふうに考えることが大切だと思ったし、それはゲーム依存だけでなく、他のことに対しても必要な考え方なのかと思いました。
- ただ、ゲームをするな、ネットに触れるなということではなく、様々な視点から依存について考えられているのが興味深かった。自分は依存しているわけではないと思うが、ネット・ゲームに対するアプローチに関しての考え方が変わった。

〔教科やその他の指導との関連性〕

- 冒頭に講師自身の進路選択の経験談と精神医学についての説明があり、特に理系の生徒にとっては、進路選択を考える上で大いに参考になったと思われる。